

# 教育 広報 いわき

編集責任者  
福島県教育庁  
いわき教育事務所  
発行責任者  
佐藤 公一

## 「わかる」とは？

いわき教育事務所長 佐藤 公一



自分が中学校教員として中堅と言われ始めた頃の話です。

屋外で典型的な前線の雲が見えたので、たまたま近くにいた生徒たちに、「あの雲は前線の雲だから、このあと雨が降るよ。」と声をかけました。生徒は「えー！傘持って来てないです！」と困った表情をうかべ、「さすが理科の先生！」と、なぜか持ち上げられました。私は「きみたちもわかっていることのはずなんだけどね。」と笑顔で突っ込みつつ、内心では「本当はわかっていたのか・・・」とがっかりしていました。

実は似たような例が時々あり、学習してわかっているはずのことが実はわかっていない、あるいはほとんど活かされていないことに課題を感じるようになっていました。

そんなとき読んだ本の中に「わかる」について印象的な文章があり、かつての私は大きな刺激を受けました。

『「おぼえる」ということばはいわば「可逆的」(もとにもどる) ことばであるのに対し、「わかる」ということばは「非可逆的」(もとにもどらない) ことばである。』

(「学びの構造」佐伯胖 東洋館出版社)

おぼえたことは忘れることもあるが、わかったことはわからなくてはならない。私にとって目から鱗でした。

我々教育に携わる者が「教える」とか「学ぶ」とか言うとき、「おぼえる」と「わかる」のどちらを意識しているかは言うまでもありません。意外と無意識に「これはテストに出るからおぼえておきなさい。」などと言っていることは、仮にテストで良い点がとれても、冒頭で述べたように「本当はわかっていたいなかった」子どもを育てているのかもしれない。

「あの雲は前線の雲だから、このあと雨が降るかもしれない。」だから、傘を持って出かける。さらには気温が下がることも予想して羽織物を用意する。授業でわかった子どもたちが、その知識を自分自身の役に立てるとともに、世の中や自然の様々なことをさらにわかるようになる。まさに「深い学び」なのですが、そんな「わかる」授業をどうやって構築するのも私たちが目指すべき授業改善の方向のひとつだと思っています。引き続き「学びの変革」を力強く進めていきましょう。

## 平商業高校 課題研究の取組

○高校での学習を課題研究に生かし、課題解決学習を通して、勤労観や地域愛を育み、地域の発展に欠かせない存在となる人づくりを推進しています。



○3年生課題研究の授業で商品開発班11名の生徒が地元企業と連携して商品開発に取り組み、試行錯誤の上完成した2つの商品「苺和大福」、「ばななっちゅー」の販売会を行いました！

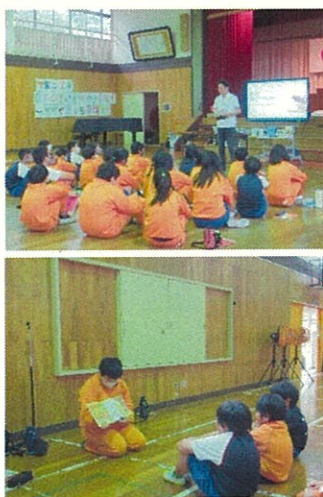
**地域でつながる家庭教育応援事業**

**第2回親子の学び応援講座**

家庭教育推進上の大きな課題である親の学び・家庭での実践活動を支援するために、各地区のPTA連合会を対象に現代的な課題や地域の課題の解決に向けた取組を行っています。

モデル連合PTAである勿来二小において読書に親しむ機会を多く作ること、さらなる読書活動の充実を図るために、親子で学べる読み聞かせ講座を実施しました。

講座では小学6年生が事前に読み聞かせの練習をし、小学1年生に向けて読み聞かせを行いました。その様子を保護者や地域の方、読書ボランティア、他校の学校司書等に参観していただきました。最後に大人の方を対象とした読み聞かせ講座を実施し、情報交換を行いました。



**地域支援体制整備事業**

今年度、ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業の「地域支援体制整備事業」において、地域で共に学び、共に生きる教育の推進のため、引き続き関係機関と連携し、就学前から学校卒業後までの切れ目のない支援体制の充実を図っています。年間を通して「地域支援チーム戦略・連携会議」を実施し、チーム支援（相談・研修）に取り組んでいます。いわき市障がい福祉課、いわき障害者就業・生活支援センター等と連携し、12月に「高就連研修会」を開催しました。市内の県立・私立の高校、大学関係者、SSW等が参加し、発達障がいをもつ当事者の方の高校卒業後のインタビュー動画をもとに、活発なグループ協議を行いました。

**小中英語パートナーシップ事業**

**及び英語指導力向上事業**

「豊かな言語活動を通じた小中連携の授業～英語による発信力の強化」「CAN-DOリストに基づく小中高を通じた授業改善」等を目的に、中央台南中、中央台東小、中央台南小で研究を深めてきました。3年目となる今年度は、市内各校においても「目的・場面・状況」を意識した言語活動、効果的な中間指導、CAN-DOリストの作成・活用について、さらに広がりが見られ、子どもたちの英語による発信力の強化につながっています。

詳細は県教育委員会のHPに掲載されますのでご覧ください。



**コミュニケーション能力育成事業**

演劇によるコミュニケーション教育の実践に、今年度は赤井小が実践校として取り組みました。6年生を対象に、3回にわたって外部講師によるワークショップや演劇創作などを行いました。



**【演劇創作の一例】**

- ①グループごとに劇に入れ込む「登場人物(2人)」と「セリフ」をくじで引く。
- ②くじで引いたものをもとに、ストーリーや残りの登場人物を相談し、5分以内の劇を創る。
- ③全員の前で発表し、講師や観ていた子どもから感想や良かった点を伝える。

子どもたちの柔軟な発想力、互いの意見を取り入れながら劇にしていく過程が大変素晴らしく、演じた後の講師のコメントも、子どもの良さを認め、励ます内容で、教員にも学びの多い事業となりました。

**ふくしま「未来の教室」授業充実事業**

授業等での ICT の活用を促進し、児童・生徒の資質・能力を育成することを目的に、内郷一中、夏井小が、3年間、本事業に取り組んできました。ミライシード、Google Workspace 等を活用することで、授業の充実と教職員の業務改善が図られた効果的な事例を数多く紹介していただきました。いわき教育事務所の HP に掲載されておりますので、ご覧ください。

**次世代のためのメディアリテラシー育成事業**

今年度は、豊間小・江名中で授業研究会や研修会が行われました。「ふくしま情報モラル診断」の活用、子どもの実態に即した課題（インターネット上でのやりとりの際の言葉遣いや、SNS等に画像を挙げる際の留意点など）について、学校全



体で協議・検討しながら実践を重ねました。詳細は県教育委員会の HP に掲載されますのでご覧ください。

**不登校・いじめ等対策推進事業**

**スペシャルサポートルーム（SSR）**

本事業は主に、不登校及び不登校傾向の児童生徒の学習機会の確保と居場所づくり、将来の社会的自立を促すことを目指しています。今年度は平五小、平二中、平三中、小名浜一中の4校において実践を進めてきました。専任教員が専用の部屋に常駐し、訪れる児童生徒に支援をしたり、家庭で過ごしている児童生徒やその保護者との教育相談を進めたりしています。

また、不登校に関わる市内教員を対象とした「SSR等担当教員研修会」を当事務所にて年3回実施しました。次年度も希望を募り実施する予定です。

どの学校も支援の主語は「子ども」であることを念頭に、実践しています。

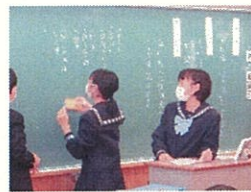


**道徳教育地区別推進協議会**

今年度は赤井中にて「親子道徳」や「支援学校との交流」「平和教育との関連」など、創意工夫を生かした道徳教育を実践していただきました。11月の発表では、小中高の校種を問わず、実践のヒントとなる事例が数多く紹介されました。詳細は今後発行される「道徳の礎」に掲載されますのでご覧ください。



**キャリア教育モデル校実践研究発表会**



子どもが将来の夢と現在の学びを結びつけ、キャリア形成及び自己実現を図ることができるようになることを目指し、三和中にて2年目の研究が進

められました。地域おこし協力隊との連携や、地元企業や施設との関わり、小中の学びの連続性などを意識しながら、生徒が主体的に考えたり話し合ったりし、意思決定する姿が見られました。

**理数教育優秀教員活用事業**

算数・数学科では、平一小、泉中のコアティーチャーが、学力調査等の結果を生かし、「学びの変革」に向けた授業を提供しました。また、算数・数学ジュニアオリンピックでは、今年も100名を超える参加者が難問に挑戦しました。平一小が最高学校賞となるなど、いわきの子どもたちの活躍が光りました。

理科では、理科授業の質的向上を図り、児童・生徒の理科への興味・関心を高めながら学力の向上を目指すことを目的として、今年度は、平二小、内郷二中で公開授業を提供しました。実験方法や学習形態の工夫が、参加者にとってすぐに現場で活用できるヒントとなりました。研究協議も、校種を超えて共に考える貴重な学びの機会となりました。



### 各種表彰、おめでとうございます (敬称略)



- ◆福島県教育・文化関係表彰
  - 学校教育功労者表彰
    - 小名浜第一中学校 校長 鯨岡 寛泰
    - 勿来第一中学校 校長 丹野 英雄
    - 磐城高等学校 校長 柳沼 英樹
  - 功績顕著な社会教育関係団体表彰
    - 上遠野小学校PTA
  - 学校保健功労者表彰
    - 小名浜東小学校学校医 賀澤 秀雄
    - 泉中学校学校医 今井 徹
  - 公立学校永年勤続者 53名
  - 特別功績者表彰
    - 「優秀教職員の部」
      - 平工業高校 実習教諭 大塚 秋典
      - いわき支援学校くぼた校 教諭 児玉 光彦
    - 「若手教職員奨励の部」
      - いわき翠の杜高校 養護教諭 渡辺 瑞希
- ◆小学校教育功労者表彰
  - 元四倉小学校長 鈴木 洋一
- ◆文部科学大臣優秀教職員表彰
  - いわき総合高校 教諭 渡部 久美子
  - 勿来高校 教諭 清水 堅香子
  - 平支援学校 教諭 鈴木 のぞみ
- ◆地域文化功労者表彰
  - 御室殿熊野神社稚児田楽・風流保存会
- ◆第16回キャリア教育優良学校
  - 文部科学大臣表彰
  - いわき総合高校
- ◆福島県教職員研究論文
  - ・入選 久之浜第二小学校 (代表) 校長 宍戸 直樹
  - ・入選 中央台東小学校 教諭 久保木 壮平
- ◆福島県算数数学ジュニアオリンピック
  - ・最高学校賞 平第一小学校
  - ・特別賞 中央台南中学校
- ◆日産財団 第11回理科教育賞
  - 渡辺小学校
- ◆食育・給食関係表彰
  - 学校給食優良学校等文部科学大臣表彰 (共同調理場) 勿来学校給食共同調理場
  - 学校給食優良団体・功労者表彰
    - 平第一小学校 栄養教諭 猪狩 奈々
  - ふくしまっ子ごはんコンテスト
    - ・学校賞 平第一小学校、渡辺小学校、平第一中学校、湯本第一中学校、植田中学校
  - ふくしまっ子健康マネジメントプラン事業
    - 食育推進優秀校表彰
    - ・優良賞 小名浜第一小学校

### 総務担当より

#### 突然の激痛に襲われないために…



公務災害で多いのが足の怪我ですが、昨年、運動神経のいいお笑い芸人が「アキレス腱を断裂」していたそうで、小職も古傷のアキレス腱炎を患っている手前、にわかに怖くなり、ネットで調べてみたので今後の参考にしてください。

・アキレス腱断裂は30代から40代に最もよく起こる外傷(完治に3か月以上かかる) ・長い時間の立ち仕事はアキレス腱にストレスをかけ続け、その結果アキレス腱に小さな傷がついたり、炎症を起こし、断裂の危険因子に ・若い人の場合、運動のしすぎや無理をすることで断裂することが多いのに対し、中高年の場合は、アキレス腱の老化が主な原因(加齢により柔軟性がなくなり、固くなる→急に大きな負荷がかかると対応できなくなり、断裂してしまう)

これらの予防法としては、

- ・運動の前に必ずストレッチをする ・急なダッシュ、強いジャンプは極力避ける ・中高年の場合は(運動前のストレッチに加えて老化予防として)、日頃から少しずつでも動かす(腰かけた姿勢で片足をあげてゆっくり足首を両方向に回す。床に座った姿勢で両足を前に伸ばし、つま先を体の方へ反らしてアキレス腱を伸ばす)等があるそうです。また、
- ・中高年の場合、運動不足によってふくらはぎの筋肉が柔軟性を失っていることも、アキレス腱に負担をかける一因(ふくらはぎの筋肉が柔軟性を失うと、運動時に筋肉の収縮などのコントロールが上手にできなくなり、筋肉が動いたとき、アキレス腱に不自然な負荷がかかり、断裂をまねく一因となる) のようです。

引用元：[https://fuelcells.org/topics/240511/\(リベアセルクリニック\)](https://fuelcells.org/topics/240511/(リベアセルクリニック))、<https://www.healthcare.omron.co.jp/resource/column/life/86.html>(オムロン)



### 管理担当より

#### 講師として勤務できる方をご紹介します！

～いわき市内の学校で、講師として勤務できる方を募集しています～

しばらく教壇に立っていないのだけど・・・  
初めて教壇に立つので自信がないのだけど・・・  
毎日働くのは難しいのだけど・・・etc



どんなことでも結構です。お気軽にご相談ください。  
連絡先：いわき教育事務所 管理担当 24-6216

☆子どもたちが夢をもてるような、学校、先生であるために、  
これからもみんなで頑張っていきましょう☆

